

まほろば【校長室だより】

[文責]

校長 江口 尋信

本年度の教育目標、重点目標

学校は、どのような子どもたちを育てていくのかを示した教育目標を掲げて教育活動を進めていきます。本校の教育目標は「自分で考え行動できる、太宰府が大好きな子どもの育成」です。3・4・6年生の児童昇降口の「コミュニティ・スクールのひろば」付近に掲示していますので、ご覧になられた方もいらっしゃるのではないかと思います。

教育目標の前段の「自分で考え行動できる」といのは、子どもの「主体性」を育むことを意味し、後段の「太宰府が大好きな子ども」とは、「郷土愛をもち自分が自分であることの自信をもった子ども」を意味します。自分が自分であることの自信とは、いいところも、悪いところも含めた自分らしさ、ありのままの自分を受け入れて、前向きに生きていく姿です。もちろん、このことは、小学生の学童期だけで成し得るものではありません。人が一生かけて到達していく課題です。ある研究者が、学童期までの課題を次のように整理しています。

- ① 【乳児期】基本的信頼を得ること。失敗すると「不信」につながる。
- ② 【幼児期前半】自律性（自分で物事を行う）を得ること。失敗すると「恥」につながる。
- ③ 【幼児期後半】自発性（自分のアイディアを試し積極的に行動）を得ること。失敗すると「罪悪感」につながる。
- ④ 【学童期】勤勉性（努力が成功につながることを）を得ること。失敗すると「劣等感」につながる。

これを踏まえると、わたしたち大人は、「①子どもたちと信頼関係を築くこと、②子どもたちに、「自分のことは自分でやる」という習慣をつけていくこと、③子どもの考え、やり方を尊重し見守ること、④がんばったらできたという体験を積み重ねさせること」の4つを心がけて子どもたちに関わっていくことが大切だということになります。

一人一人の子どもたちのもっている可能性の芽を伸ばしていくためにも、学校と保護者、地域の皆様の真ん中に子どもを位置付けて、共に「子育て」「教育活動」を進めていきたいと思っています。引き続き、保護者の皆様のご協力をお願いいたします。

登校風景から

1年生が登校してくるようになりました。きょうだいでやって来たり、近所の上級生が手を引いて一緒に来たりしている1年生もいました。中には、1人で歩いてきている1年生がいましたので、「一人で大丈夫？通学路を覚えたかな？」と尋ねると、「大丈夫！」という元気な返事が返ってきました。15日（火）には、1年生を対象とした交通安全教室がありました。学童期でも、特に1年生・7歳の交通事故が多いそうです。学校へ通うようになり、行動範囲が広がること、まだ周囲の危険を感知する力が十分に育っていないことが理由だといわれています。登下校中、地域の方が見守ってくださっていますが、車には十分気をつけて登校するよう、ご家庭でも声かけをお願いします。